

このピアノが清水高原にきたのは、娘が生まれてすこしたってからでした、女房の父が孫ために買ってくれたものです。

娘は1976年(昭和51年)に生まれました。当時は、県営住宅の並柳に住んでいましたが、よく年の1977年(昭和52年)に清水高原に家を建て10月には引っ越しをしました。

ピアノは少したってからですので記憶では昭和56年(1981年)頃に清水高原にやってきました、当時もかなり重いピアノで専門の方が二人で坂道を運んでくれました。

このピアノもっぱら娘の練習につかわれました、結構きつい練習もあり、女房がつきっきりで面倒を見ていたことも記憶に残っています。



<シュバ ツァスタインピアノ>

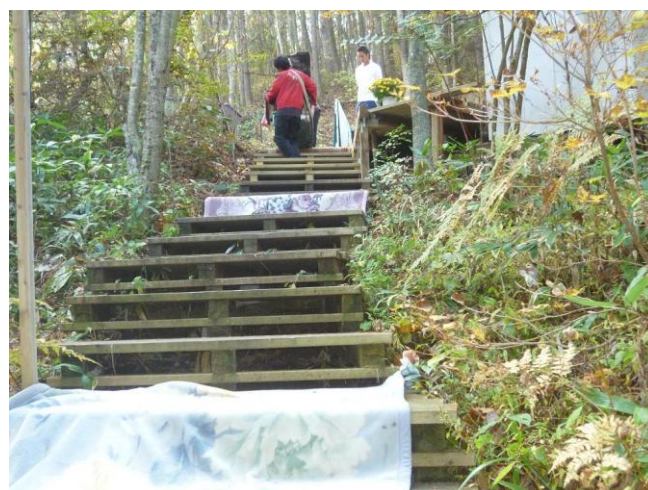
ときを経て孫が生まれ、時々お山の家に来るようになりました。孫は二人とも女の子で、来た時は必ずピアノで遊んでいます。

清水高原にきて、30年間以上も音を発生しつづけ住民になってしまったような気がするピアノですが、かわいい孫のために、千曲市にある娘の家にピアノを移す事にしました。

ピアノ専門の引っ越し業者に頼んでの大仕事です、業者の人は、数日前に視察きて見積もりを出してくれました、このピアノ結構重いことが分かっていますの

お金より当日ほんとうに運びだせるかが心配でした、最初は玄関からとの構想でしたが、すぐにあきらめ部屋の外に面した引き戸から運びだしに成功しました、ここからが見ていてもかなり大変な作業になり、1つの山は階段に載せること、段差50cmくらいで狭いところを、頭と強力を駆使して徐々に階段に載せていきました、さすがプロと思いました、ずっと二人で待ちあげていきますが、階段は下の方の人に負担がかかります、数段で上下を交代した後は、一気にスピードがつき、無事上まで担ぎあげました、あの背骨のそりは今でも忘れません、ほんとうにごくろう様でした。

ピアノが無くなりちょっとさみしくなった室孫の子どもまでもよろこんで弾いてくれる事を祈っています。



<階段18段を上げる>